

◎病害虫は早期の発見・適期の防除

◎農薬の使用基準を守り飛散防止に努めましょう。

時期	6			7			8			9			10		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
稲の一生															
	生育ステージ	田植期 → 有効分げつ期 → 穂肥 → 幼穂形成期 → 出穂期 → 登熟期間 → 米粒完成 → 成熟期													
病害虫名	いもち病, ウンカ類, 葉いもち, 稲紋こじ病, いもち病, トビイロウンカ, カトメイシロウンカ														
	農薬名	ビルダールフェルテラチエス粒, ダブルカット粉3DL, アブロードモンカッタスタークル, モンガリット粒, ダブルカットバリダトレポン粉, ノンブラストレバリダ粉DL, スタークル粉DL													
10a当りの散布量	一箱当り50g, 3~4kg, 3~4kg, 3~4kg, 3~4kg, 3kg														
病害虫名	いもち病, ウンカ類, 稲紋こじ病, いもち病, トビイロウンカ, カトメイシロウンカ														
	農薬名	ビルダールフェルテラチエス粒, アブロードモンカッタスタークル, モンガリット粒, ダブルカットバリダトレポン粉, ノンブラストレバリダ粉DL, スタークル粉DL													
10a当りの散布量	一箱当り50g, 3kg, 3~4kg, 3~4kg, 3~4kg, 3kg														

### 農業安全基準

※回数については、本剤での使用回数です。

病害虫名	農薬名	使用時期	回数
いもち病	ブラシ粉DL	収穫7日前まで	2回以内
	コラトップ粒	葉いもちに対しては初発10日前～初発時 穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	
いもち病、紋枯病	ダブルカット粉3DL	播種期まで	2回以内
	ダブルカットバリダフロアブル	収穫14日前まで	
紋枯病	バリダシン液5	収穫14日前まで	5回以内
	アブロードモンカッタスタークルF粒DL	収穫14日前まで	
ウンカ類	アブロードモンカッタスタークル	収穫14日前まで	3回以内
稲こじ病	ドイツボルドーA	出穂10日前まで	
稲こじ病、紋枯病	モンガリット粒	収穫45日前まで	2回以内
	スクミンゴガイ	収穫後(但し、収穫80日前まで)	
ウンカ類	スタークル粉DL	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル液10	収穫7日前まで	
いもち病、ウンカ類、カメムシ類	アブロードスタークルゾル	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル粒	収穫7日前まで	
いもち病、ウンカ類、カメムシ類	ビームアブロードスタークル粉SD	収穫14日前まで	2回以内
	トレボンEW	収穫7日前まで	
いもち病、紋枯病、ウンカ類	Mr.ジョーカー粉DL	播種期まで	2回以内
	ダブルカットバリダトレポン粉3DL	播種期まで	
いもち病、カメムシ類	ノンブラストレバリダ粉DL	収穫14日前まで	2回以内

※ いもち病耐性菌が発生しやすいことから、アミスター、イモチエース、嵐剤を含む農薬を使用する場合は、箱施薬剤及び本田散布剤のいずれか1回にしましょう。

※ トビイロウンカについては、発生予察情報に基づいた第1世代幼虫の防除が重要です。(7月中旬～下旬)

### 箱施薬の各病害虫に対する効果

剤名	いもち病	紋枯病	ウンカ類	トビイロウンカ	コブノメイガ
ビルダールフェルテラチエス粒	○	○	○	○	○
フェルテラチエス粒	○	○	○	○	○
フィルターボ箱粒剤	○	○	○	○	○

◎効果大 ○効果あり ×効果不足 一登録なし

※ 本田で稲こじ病対策としてモンガリット粒剤を散布する場合、同時に紋枯病対策もできるため、箱施薬での紋枯病防除の必要性は低くなります。

◎病害虫の発生状況は「県防除所」電話〇九九-二九六-六四三〇

### 箱苗の作り方

(注) スミチオン乳剤はメーカーによって水稲に登録のないものがあります。

5日前 (1) 箱消毒 (2) 床土消毒 (3) 種消毒 (4) 種まき (5) 育苗

0~4日 (1) 出芽期 (2) 緑化期 (3) 緑化期

4~10日 (1) 緑化期 (2) 緑化期 (3) 緑化期

10~20日 (1) 緑化期 (2) 緑化期 (3) 緑化期

5日前 (1) 箱消毒 (2) 床土消毒 (3) 種消毒 (4) 種まき (5) 育苗

5日前 (1) 箱消毒 (2) 床土消毒 (3) 種消毒 (4) 種まき (5) 育苗

5日前 (1) 箱消毒 (2) 床土消毒 (3) 種消毒 (4) 種まき (5) 育苗

### 除草剤の使い方 (使用の際は必ずラベルを読んで下さい。)

散布時期	除草剤名	10a当り散布量	雑草名	使用上の注意
移植後3日~ノビエ2葉期 (但し移植後30日まで)	ミスターホームランジャンボ	10ﾊｯｸ	水田一年生雑草(ヒ等)	畦畔からバックを投げ込むだけの省力型。(風の強い日には散布しない) 水を5~8cmためて散布し、4日程度水をためる。バックは水溶性なので、雨などでぬれさないようにする。
移植後3日~ノビエ2.5葉期 (但し移植後30日まで)	パッチリ1キロ粒	1kg	ウリカワ	水は湛水で全面散布し、かけ流しをしない。
移植後3日~ノビエ2.5葉期 (但し移植後30日まで)	イネキング1キロ粒 ※	1kg	マツパイ	薬害の恐れがあるので、散布後は補植しない。
移植後5日~ノビエ3葉期 (但し移植後30日まで)	ザークD粒17(3キロ)	3kg	ホタルイ	
移植後5日~ノビエ3葉期 (但し移植後30日まで)	リードソング(3キロ)	3kg	ミズガヤツリ	
移植後5日~ノビエ3葉期 (但し移植後30日まで)	ピクトリーZジャンボ	10ﾊｯｸ	ヒエ	畦畔からバックを投げ込むだけの省力型。(風の強い日には散布しない) 水を5~8cmためて散布し、4日程度水をためる。バックは水溶性なので、雨などでぬれさないようにする。
移植後15日~ノビエ3.5葉期 (但し収穫80日前まで)	ハイカット1キロ粒	1kg	ヒエ	水を3~5cmためて散布し、3日程度水をためる。
移植後15日~55日 (但し収穫80日前まで)	バサグラン液	500~700ml	イネ科を除く一年生雑草	除草剤散布後雑草の生育は停止するが、実勢枯死するまで3週間程度かかる。落水・湛水状態で散布し、3日間は水をためない。クログワイに効果あり。
移植後20日~ノビエ6葉期 (但し収穫30日前まで)	クリンチャーEW	100ml	ヒエ	除草剤(ベタリン)を加用し、25~100ℓの水に希釈して使用する。落水または湛水(水を3~5cmためて散布し、4日程度水をためる)で使用。広葉雑草には効果が無いので注意。
移植後15日~ノビエ5葉期 (但し収穫80日前まで)	クリンチャーバスマE液	1000ml	ヒエ	除草剤は加用せず(不要)、70~100ℓの水に希釈して使用する。落水状態で散布する。落水状態にできない場合は湛水状態で散布する。高温では薬害の恐れがあるので注意。
移植後20日(イネ5葉期以降)~ノビエ5葉期 (但し収穫30日前まで)	ワイドアタックSC	100ml	ウリカワ	除草剤は加用せず(不要)、100ℓの水に希釈して使用する。クログワイに効果あり。除草剤散布後雑草の生育は停止するが、効果が確認できるまで3週間程度かかる。落水状態で散布する。落水状態にできない場合は湛水状態で散布する。

※イネキング1キロ粒は飼料用米品種の一部(ミズホチカラ、モミロマン、ルリアオバ、夢十色、タカナリなどの長粒種)に使用した場合、白化、枯死などの影響があるので使用できません。

### 標準的施肥例と品種別栽培の留意事項

資材名	10a当り施用量	特徴
ケイソウ	100kg	鉄分の欠乏による秋落の防止。けい酸の補給による倒伏防止、増収・品質向上に役立ちます。
ケイカル	100kg	茎や葉が丈夫になり病害虫、倒伏、冷害などに強くなります。葉の受光体制が良くなり、登熟歩合が向上します。
粒状緩効窒素肥料	100kg	ヨーリンとケイカル・鉄を4:6で配合しており、根腐れ(軟腐)防止、倒伏軽減、施肥の省力化がはかれます。
緩効窒素肥料	20~40kg	鉄分を含んだ緩効肥料です。根の生育を促進し、軟腐防止や鉄欠乏の予防に効果があります。
緩効窒素肥料	40~60kg	ケイ酸・鉄分を含んでいますので、健全な根を作り、軟腐・根腐れを防止します。
シリカサポート1号	20~40kg	高濃度のケイ酸により、倒伏軽減や受光体勢、登熟効果を高める効果が期待できます。

肥料名	10a当り施用量	ヒノヒカリ	あきほなみ・はなさつま
ニューあいら水稲277 BB0240(低コスト肥料)	30kg	圃場の地力により施用量を調整する。	圃場の地力により施用量を調整する。
ヒカリエース2号	35kg	圃場の地力により施用量を調整する。	圃場の地力により施用量を調整する。
普通期晩生ロング(基肥・発芽型肥料)	50kg	圃場の地力により施用量を調整する。肥料は施用しない。	圃場の地力により施用量を調整する。肥料は施用しない。
倒伏軽減 食味向上資材	20kg	食味向上と倒伏軽減対策として施用する。出穂40日前(7月中旬)に施用する。	倒伏に強い品種であるが、食味向上のために施用する。出穂40日前(7月中旬)に施用する。
米産り一番 又は マルチサポート1号	20kg	生育状況を見て施用量を調整する。出穂20日前に施用する。	生育状況を見て施用する。出穂20~25日前に施用する。
穂肥 BBNKO-77	5~10kg	出穂20日前に施用する。実肥は絶対に施用しない。	実肥は絶対に施用しない。

(注1) 基肥は圃場と地域性に合った肥料を使用しましょう。  
(注2) 鉄分を含む資材については、たばこ作付予定圃場での使用は控えます。

※ 標準的施肥例ですので、生育状況に応じた栽培管理を徹底しましょう。

### 品質向上対策について

- 登熟期に気温が高いと、「高温障害」により「心白米」等が発生するおそれがあります。このため、田植えを適期に行い、登熟期の高温を避けるようにしましょう。地域及び水利等の圃場条件に適した品種を選定しましょう。

### 抵抗性雑草について

- 長年、同じ除草剤を使用し効なくなった雑草が発生している圃場には、抵抗性雑草対策として、ミスターホームランジャンボ・パッチリ1キロ粒・イネキング1キロ粒・リードソングを使用しましょう。

### ウキクサ・薬類の対策について

- モゲン粒を発生後～発生盛期(収穫45日前まで)10a当り2~3kg散布しましょう。湛水散布し、落水・かけ流しをしないようにしましょう。薬類には、部分的に散布しても効果があります。

### スクミンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生場所では

- 冬場に耕うんを行い殺菌しましょう。作業は寒い時期が効果的です。卵の塊をできるだけ除去しましょう。
- 田植え後は湛水にしましょう。

### 稲こじ病の発生場所では

- 種子伝染するため、発生した水田からは採種しないようにしましょう。常発地帯では窒素肥料の多施用を避けましょう。
- 出穂20日前までに薬剤防除しましょう。

※ 雑油かすは、農薬として登録がとれておらず、魚毒性が非常に高いため、水田でのスクミンゴガイ防除には使用できません。  
※ 農薬の登録状況は、平成28年12月10日現在です。  
※ 農薬の使用に当たっては、容器包装に表示してある使用方法を確認して使用しましょう。

**農薬をご購入の際は印鑑をご持参下さい。**